

3月の家計調査報告からみた個人消費動向 ～ 全国的・全階層に広がった消費自粛の動き ～

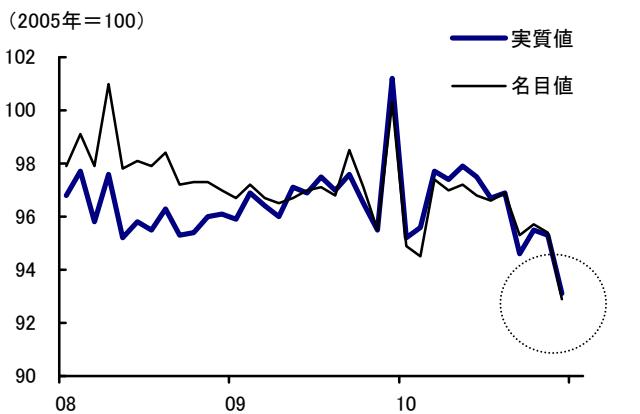
(1) 3月の家計調査報告によると、世帯当たりの名目消費支出は前年比▲8.4%と大幅な減少に(図表1)。発表値は、震災被害が特に大きかった岩手県、宮城県、福島県の7市町村の標本が含まれなかったため、これらを含む本来の統計サンプルベースではさらに大きな落ち込み。

(2) 支出項目の内訳をみると、震災を受けた消費自粛の動きから、外食、教養娯楽等、不急支出の落ち込みが大(図表2)。一方、外食を除く食品支出は増加したものの、買いだめによる押し上げは限定的。個別品目では、大きく伸びたものが散見されたが、物流の混乱による欠品の多発により、在庫払底後は販売が伸びなかった模様(図表3)。

(3) 年齢階層別、所得階層別にみると、全階層にわたって大幅な落ち込み(図表4)。通常、低所得層世帯では、必需品、必需サービスの支出割合が相対的に高いため、減少も小幅にとどまるのが通例であるが、今回は大きく減少。またエコポイント付与最終月の駆け込み需要も盛り上がりならず、低所得層も含めポイント縮小前の駆け込み需要との差を一段と広げる要因に。

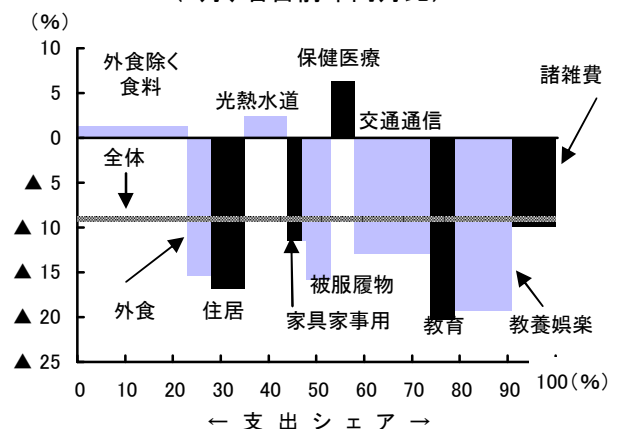
(4) 4月入り後、物流網の回復は進みつつあるが、消費自粛傾向は残存。当面、消費回復の足取りは鈍いものとどまる公算大。

図表1 世帯当たり消費支出の推移



(資料)総務省
(注)二人以上世帯。以下同じ。

図表2 項目別世帯当たり名目消費支出
(3月、名目前年同月比)

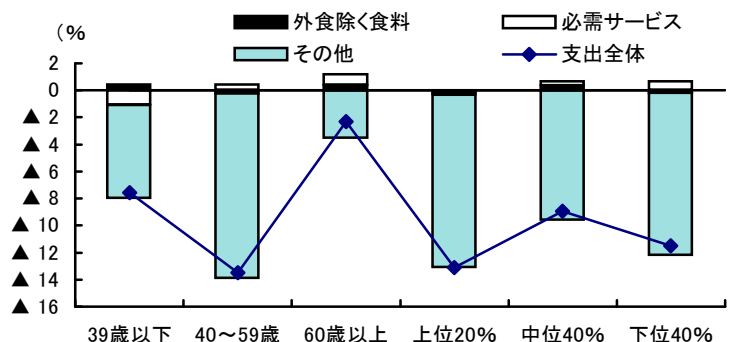


(資料)総務省
(注)支出シェアは2010年。

図表3 3月に大きく変化した費目
(名目前年同月比)

大きく伸びた品目 (%)	
寄付金	858.3
カセット式ガスボンベ等	325.0
電池	185.7
ミネラルウォーター	148.8
カセット式ガスコンロ等	107.4
大きく落ち込んだ品目	
鉄道運賃	▲12.0
食事代	▲14.1
入場・観覧・ゲーム代	▲24.5
宿泊料	▲34.5
飲酒代	▲35.6

図表4 世帯主年齢・所得階層別世帯当たり消費支出
(3月、名目前年同月比)



(資料)総務省
(注)必需サービスは家賃、光熱費、保健医療。所得階層グループの平均年収は上位1190万円、中位719万円、下位415万円(2010年)。